

土成中学校  
「学力向上実行プラン」

研究テーマ

- ①自らを成長させようとする生徒の育成
- ②家庭における学習習慣の確立による学力の定着

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員 校長:	教頭:	教務主任:
	坂東大輔	1年主任: 人権教育主事、生徒指導主事、道徳教育推進教師、研修主任、保健主事	2年主任: 3年主任: 特別支援教育コーディネーター
河野昌紀	学力向上学年担当:(1年) 、(2年) 、(3年)		

校長



(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 漢字の読み書き、計算などの基礎的な事柄については、意欲的な取り組みが見られ、ある程度の定着が見られる。	①読書習慣が身についている。 ②言語に対する関心・理解を深め、言語に関する基礎的・基本的な知識や技能を身につけることができる。	①「読書の習慣が身についている」と答える生徒が60%以上を目指す。 ②県調査の国語「書くこと・読むこと」の項目が県平均以上を目指す。			
課題 学力に二極化が見られる。学力の低い生徒は、文章を読み取る力が弱く、書くことが苦手なので、学習意欲の低下につながっていると考えられる。	具体的方策(教員の取組) ①学級文庫の充実、朝の読書の時間の確保により、読書活動を促す。 ②確認テスト等を計画的、継続的に実施する。 ③生活記録の指導を通して、言語力の向上を図る。	取組指標 ①一日平均15分以上の読書を目指す。 ②授業の中で、週1回以上確認テストなどを実施する。 ③生活記録提出率80%以上を目指す。		評価 次年度における改善事項	

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 自分の考えや思いを相手に分かりやすく伝えようとする意欲がある。	目的に応じて、根拠や理由を明らかにしながら、自分の考えを表現することができる。	①県調査国語「話す・聞く能力」において県平均以上を目指す。 ②県調査の数学「数学的な見方や考え方」において、県平均以上を目指す。			
課題 自分の考えや思いを筋道を立てて表現することに課題がある。	具体的方策(教員の取組) ①学習活動の中で自分の考えを筋道を立てて説明したり、文章に書く・表現したりする機会を意図的に設ける。 ②学び合い活動を取り入れた授業を実施する。	取組指標 ①自分の考えを筋道立てて発表する機会を1週間に1回以上設ける。 ②各学年、研究授業を1回以上実施し、授業に生かす。		評価 次年度における改善事項	

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 全体的に落ち着いて学習に取り組むことができる。学習に対して、積極的に取り組まなくてはならないことを理解している生徒は多い。	自ら課題に自ら気づき、自ら主体的に取り組むことができる。	①「家庭学習の習慣が身についている」と答える生徒の割合が80%以上を目指す。 ②「自ら進んで課題を見つけ、それに積極的に取り組むことができる」に対して肯定的に答える生徒が80%以上を目指す。			
課題 難しいことや苦手なことでも最後まであきらめない気持ちや、疑問に思ったことについて追求しようとする意欲が乏しい。	具体的方策(教員の取組) ①学習課題等を工夫し、最後まで努力するや探求心を育成する。 ②自主勉強への取り組みについて粘り強く指導し、家庭学習の習慣化を図る。	取組指標 ①生徒の生活に即した学習課題を設ける。 ②自主勉強を毎日提出できる生徒の割合が80%以上を目指す。		評価 次年度における改善事項	

平成31年度 学力向上ロードマップ

